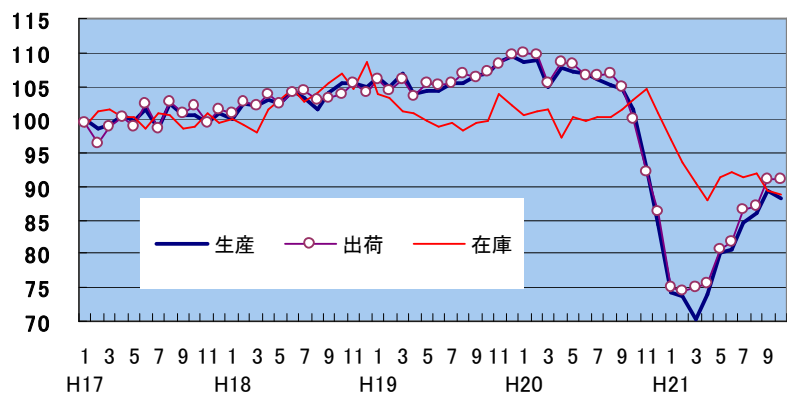


中国地方のコンテナ物流について

中国地方の経済動向

鉱工業指数

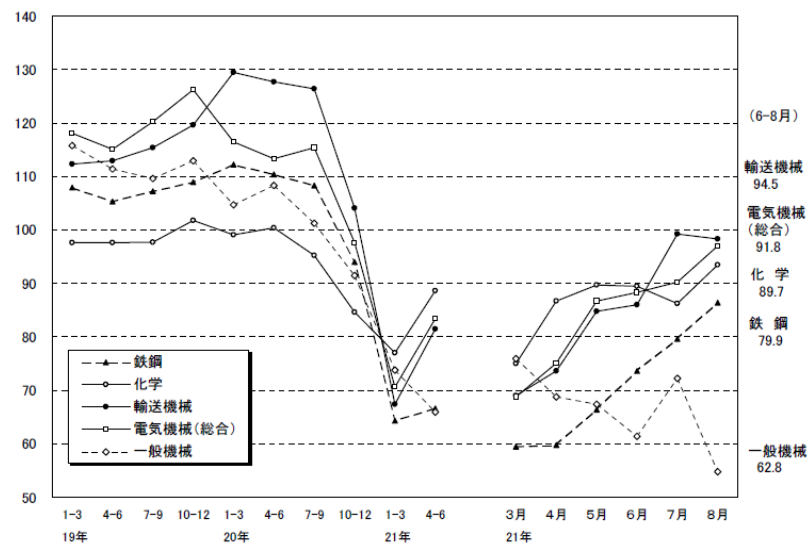
(平成17年=100)



(資料出所: 中国経済産業局)

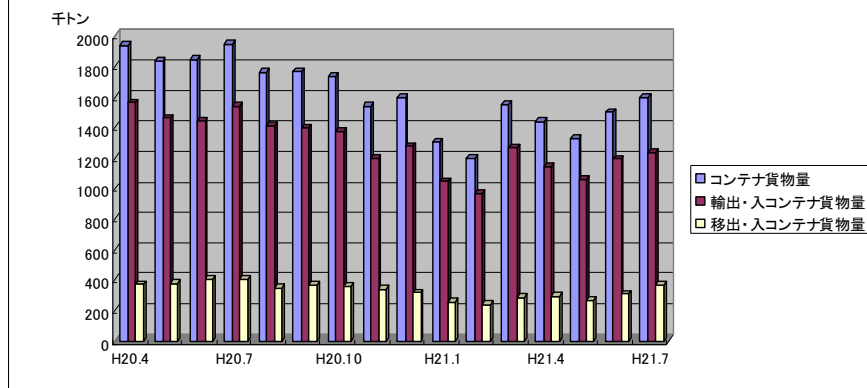
主要業種別生産指数(季節調整値)

(平成17年=100)

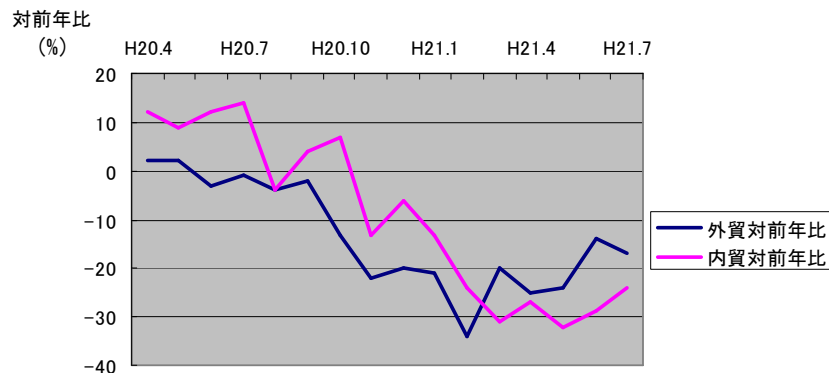


中国地方の港湾におけるコンテナ貨物量の推移

中国管内12港におけるコンテナ貨物量の推移(20年4月~21年7月)



外貨・内貨別コンテナ貨物量の対前年比



中国地方のコンテナ物流について

中国地方における物流のボトルネック

- 航路に限りがある。便数の減少。→出荷日が限られる。納期に間に合わない。
- 阪神地区や九州に荷揚げされ陸送。→他地域にくらべコスト増。
- 通関でコンテナごと検査できるX線装置が少ない。→通関検査時間が長く、積卸積込コストが発生。
- 荷量が少ないがLCLを扱うところがない。→他港への陸送費が発生。
- 空コンテナがない。→ドレージ費用が発生。
- 商社に港を指定される。→指定港とのドレージ費用が発生。
- 危険品倉庫が港にない。→危険品倉庫のある港を利用せざるを得ない。
- 荷役機械が少ない→沖待ちが発生。
- 大型船が寄港できない。→大型船着港からのドレージ費用が発生。小型船では割高。
- 大型車両が通行できる道路が限られる。→交通渋滞等が発生した場合遅れが発生。

等

中国地方における物流量の増加

- 既存製造業の生産拡大
- 新たな産業の創出(環境・新エネルギー等)

等

中国地方における発着物流量の増加

- 管内港湾の利用率向上
 - ・北米・欧州向け貨物の内航フィーダーの利便性向上
 - ・東南アジアと結ぶ香港航路等の利用拡大
 - ・管内各港と中国等との結びつき強化
- 荷主企業へのメリットの情報提供
- 選択肢の拡大

等